



植竹中だより

さいたま市立植竹中学校 学校教育目標：「ひと」とともに生きる生徒の育成



『ひと』とともに生きる生徒の育成

～「植竹学習モデル」の推進による「確かな学力」の向上～

校長 福島 博子

校門脇のツツジが花を開き始めた日、嬉しいお電話がありました。「植竹中の女生徒さんが、コンビニエンスストアで、倒れて起き上がれずにいる女性を助けていました。女生徒さんの力だけでは立ち上がれず、他にも大人の方が何人か来て助けていましたが、彼女は、『もう大丈夫』といってもずっとその場に寄り添っていました。彼女の行動をお伝えしたくて電話しました」という内容でした。さすが植中生と大変うれしくなりました。「真心は、相手に届くもの」「真心は周囲も温かくするもの」そう実感しました。

さて、本校は、さいたま市教育委員会より、「学力向上」の研究指定を受け、今年度で3年目を迎えました。生徒一人ひとりの学力向上を目指し、次の3点を柱として実践的な研究に教職員一丸となって取り組んでいます。

- 1 学習課題の設定と振り返りの充実による、基礎的・基本的な知識・技能の定着
 - 生徒の興味・関心に基づき、具体的でわかりやすい学習課題を設定する。
 - 一時間の授業や単元で学習した内容を生徒自身が振り返ることにより、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図る。
 - ワークシートの活用などにより、個に応じた指導の充実を図る。
- 2 「深い学び」の実現を旨とした授業改善
 - 学習課題の解決に向けた主体的・対話的な学び合いの場面を積極的に設定する。
 - 思考・表現をする際の視点を明確に提示するとともに、互いの考えを比べたり、関連付けたりさせる指導の充実を図る。
 - 学んだ知識や技能を活用して、課題に対する答えを考える学習や、理由や根拠を示して論理的に説明する学習を授業に取り入れる。
- 3 家庭学習の充実と家庭・地域との連携
 - 単元ごとの主な学習課題の例を示したシラバスを配付し、1年間の学習の見通しをもたせる。
 - 本校独自の生活記録ノートを活用し、「できるようになったこと」を記録させることにより、自己肯定感を醸成し、家庭学習を行う意欲を喚起する。
 - 「研究通信」を発行し、家庭・地域に対して積極的に情報を発信することにより、学校課題研究へのご理解・ご協力をいただくとともに、相互の連携を強化する。

これからの未来を拓いていく上で最も大切なのは、学力向上はもとより、生徒一人ひとりの「心身の健康」です。明日から大型連休が始まりますが、新メンバーでスタートした4月からの「緊張や疲れ」を癒し、十分リフレッシュする連休であってほしいと願います。

保護者・地域の皆様、過日はお忙しい中、本校の学校公開・保護者会等にご参集いただき、ありがとうございました。今後も、本校教育活動へのご理解、ご協力の程よろしくお願い申し上げます。